

＜研究報告＞

ボランティア活動を通じた障害者のスポーツ参加に対する理解 —障害者スポーツ大会ボランティアを経験した大学生への聞き取りから—

近藤 尚也*

抄 録:本研究では、障害者スポーツ参加を進めるために、障害者スポーツ大会でのボランティア活動を行った大学生へ聞き取りを行い、ボランティア大学生の障害者スポーツに対する意識の変化について事例的に明らかにすることを目的とした。

障害者クロスカントリースキーワールドカップ（以下、障害者スポーツ大会）にボランティアとして参加した大学生4名を対象に、フォーカス・グループ・インタビューを実施し、その内容を質的に分析した。ボランティア参加のきっかけとしては、仲の良い友人等に誘われることがきっかけとなり、参加するといったパターンが多いとの回答も見られ、きっかけをつくるマンパワーの重要性があげられた。

ボランティア参加前の障害者のスポーツ参加についてのイメージは、そもそも障害者スポーツを見たことがないためイメージがない、ぎこちなさやまごつきが多いととらえているものがあった。一方でボランティア前に既に継続して障害者スポーツに関わっていたものについては、障害に対するマイナスイメージは持っていないとの回答であった。

実際にボランティアを通して近くで関わる機会を持つことで、関心を寄せ、更に障害の有無関係なく、一つのスポーツとしての魅力を感じるきっかけとなっていた。障害者のスポーツ参加を理解するにあたり、ボランティアを通じて、近くで関わる経験をすることの有効性が示唆された。

キーワード：障害者スポーツ、ボランティア

I. はじめに

障害者の権利に関する条約では「障害者があらゆる水準の一般のスポーツ活動に可能な限り参加することを奨励し、及び促進すること。」と述べられている。日本でも障害者基本法にて、国及び地方公共団体は、障害者が「スポーツ又はレクリエーションを行うことができるようにするため、施設、設備その他の諸条件の整備、文化芸術、スポーツ等に関する活動の助成その他の諸条件の整備、文化芸術、スポーツ等に関する活動の助成その他必要な施策を講じなければならない。」としている。2011年にはスポーツ基本法が制定され、障害者のスポーツ推進に関しても明記された。このように、文化的諸条件の整備等の観点を含め、障害者の生活を充実させてい

くものとして、スポーツを捉えることは重要である。

近年、障害者のスポーツに関心が集まり、メディアなどでも数多く取り上げられることが増えてきた。しかしながら、障害者のスポーツ参加に対する理解についてはまだ十分とは言えないのが現状である。

そのような中で障害者のスポーツやそれに関連するボランティアについて、ボランティア動機に対する研究（桜井2002）や障害者スポーツボランティアに関する研究（大山他2012）など、様々な側面から研究が行われてきている。

本研究では、障害者のスポーツ参加を進めていく上で、障害者スポーツ大会でのボランティアへ参加した大学生へ聞き取りを行い、ボランティア大学生の障害者スポーツに対する意識の変化について事例的に明らかにすることを目的とした。

* 臨床福祉学科 社会福祉学講座

II. 方法

障害者クロスカントリースキーワールドカップにボランティアとして参加した大学生4名を対象にインタビュー調査を行った。インタビュー調査は半構造化された質問項目を聞き取るフォーカス・グループ・インタビューにて実施した。主な質問項目としては、これまでのボランティア経験、今回のボランティア参加のきっかけ、障害者のスポーツについてのイメージ変化などであった。

インタビューは映像による記録を行い、映像記録から逐語録を作成した。さらに質問項目を中心に内容を分類、整理して、グループにおける事例として質的に分析した。

倫理的配慮

本研究を行うにあたり対象者へは、口頭及び書面にて調査に関する説明を行い、映像記録を含む調査への承諾を得た。得られたデータはデジタル化することで個人が特定できないよう配慮を行った。また、参加しない場合でも不利益がないことを口頭、文章にて伝えて同意を得た。

III. 結果

基本情報として、対象者4名は社会福祉系大学の4年生で全員女性であった。これまでのスポーツ経験については、学校体育を除いて、3名が部活動等で経験をしていたが、1名はスポーツ経験なしとの回答であった。これまでのボランティア経験については、4名全員が何かしらのボランティアを経験していた。参加の形態につい

ては、中学高校の中で、部活動や学校行事として参加していたものが多かった。大学では、学内で行われている障害者の生涯学習支援ボランティアを数回行う程度にとどまっていたものが多かった。現在自発的に継続したボランティア活動を行っているものは1名であった。

経験したボランティアの内容としては、高齢者宅の除雪、寄付活動や清掃活動への参加などがあげられていた。継続している1名は、障害児に関する学習支援ボランティアを行っていた。3名の学生は継続的にボランティア活動へ参加はしていない現状であった。障害者のスポーツに触れた機会については、これまでほとんどなく、メディアなどで車椅子バスケットボールなど見たことがある程度のものがほとんどであった。直接競技を見たことがあるものはいなかった。

得られた逐語データについては、その内容から、これまでのボランティア経験、今回のボランティア参加のきっかけ、障害者スポーツに関するイメージ（ボランティア参加前）、障害者スポーツに関するイメージ（ボランティア参加後）の項目に整理した（表1）。

大会ボランティア参加のきっかけ

今回、障害者スポーツ大会のボランティアに参加したきっかけとしては、自らの積極的意思により参加したものが1名、そのものに誘われて参加したものが3名であった。その3名については、これまで経験してきたボランティアも、自ら積極的に参加したといったようなことはほとんどないとの回答であった。一方で、そのような状況でも、仲の良い友人等に誘われることがきっかけとなり、ボランティアへ参加するといったパターンが多いとの回答も見られ、きっかけをつくるマンパワーの重要性があげられた。

表1 対象概要

	A	B	C	D
学年	4年	4年	4年	4年
これまでのボランティア経験	・高校での募金活動 ・幼稚園の運動会ボランティア ・知的障害者の生涯学習支援	・知的障害者の生涯学習支援	・障害児への学習ボランティアを継続 ・知的障害者の生涯学習支援	・学校行事としてゴミ拾いなど ・部活動で高齢者宅の除雪 ・知的障害者の生涯学習支援
今回のボランティア参加のきっかけ	・友人に誘われて	・友人に誘われて	・自ら積極的に	・友人に誘われて
障害者スポーツに関するイメージ (ボランティア参加前)	・まごつきやぎこちなさを想像	・何もわからない状態	・既に関わっていてスポーツとしての認識	・何も考えずに参加した
障害者スポーツに関するイメージ (ボランティア参加後)	・スポーツをみる視野が広がった	・面白い・スポーツと感じた・普通の人と変わらない驚き	・スポーツの可能性を感じた・トップアスリートの凄さを感じた	・面白い・機会があれば自分もやってみたい・健常者と変わらない

障害者のスポーツに関するイメージの変化

ボランティア参加前の障害者のスポーツについてのイメージは、そもそも障害者スポーツを見たことがないためイメージがないといったものや、これまで関わったことがある知的障害者のイメージから、ぎこちなさやまごつきが多いととらえているものがいた。今回のボランティア前に既に継続して障害者スポーツに関わっていたものについては、障害に対するマイナスイメージは持っていないとの回答であった。

ボランティア参加後の障害者のスポーツに対するイメージは、思った以上にいろいろなことができる、障害の状況にあわせて実施していることに凄さを感じた、面白かった、視野が広がった、普通にスポーツであり健常者と変わらない、自分も競技をやってみたい、といった言葉が聞かれ、ボランティア参加前と比べて、全体としてプラスの方向にイメージが変化していた。

Ⅳ. 考察

本研究では、障害者のスポーツ大会でのボランティアへ参加した大学生へ聞き取りを行い、ボランティア参加者の障害者スポーツに対する意識の変化について事例的に明らかにすることを目的とした。

ボランティアについて、対象者の多くはこれまで積極的にボランティア活動を行う傾向が弱かったが、参加のきっかけの核となる人材がいることで参加の意識を持つことができていた。また、友人関係等、一定程度の関係形成ができていたものが核となることで、その効果が高まることが示唆された。ボランティアにあまり積極的ではない場合にはきっかけを作る核となるものの参加が重要な要素になる。また、継続的な参加に関しては、一緒にボランティア参加したメンバーの他に、ボランティア先における運営スタッフとのかかわりなど、ボランティアで経験したことが影響を与えることもうかがわれた。

障害者スポーツに対する意識は、参加前、ぎこちなさやまごつきがあるといったイメージを持っていたり、そもそも無関心であったりしたが、実際にボランティアを通して近くで関わる機会を持つことで、関心を寄せ、更に障害の有無関係なく、一つのスポーツとしての魅力を感じるきっかけとなっていた。障害者のスポーツ参加を理解するにあたり、ボランティアを通じて、近くで関わる経験をすることの有効性が示唆された。メディアなどで触れるだけではなく、自身の経験として直接かかわることは、障害者スポーツの肯定的な意識を形成していく上で重要となる。また、特に今回のボランティア体験では身体障害を中心としたトップレベルの選手に触れており、そのパフォーマンスの高さなどを感じることで障害

者スポーツについて競技としての認識を高める要因としても大きく働いたと考えられる。トップレベルの選手に関わる機会はやはり、非日常であり、特別な機会であろう。しかしながら、それを一つのきっかけとして、障害者のスポーツ参加をより身近なものとしていける機会を増やしていくことも重要である。

本事例では、障害者スポーツ大会におけるボランティア参加が、ボランティアの楽しさと、障害者スポーツのスポーツとしての理解を深めるきっかけとなっていたと考えられる（図1）。

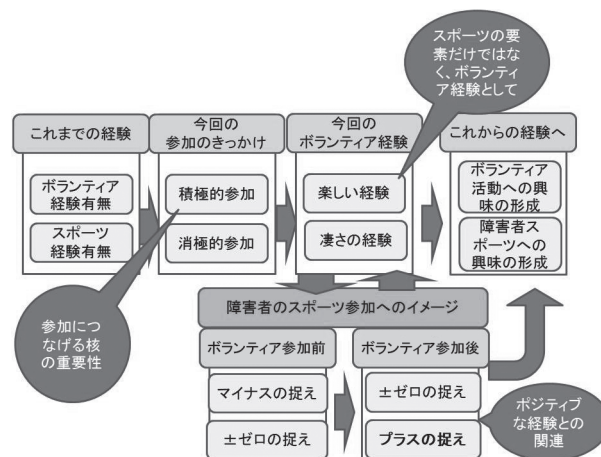


図1 事例における経験の経過と障害者スポーツに対するイメージの変化

V. おわりに

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決まり、今後ますます障害者のスポーツに注目が集まると考えられる。オリンピック・パラリンピックの中でも多くのボランティアが必要であるが、その参加を通して、障害者スポーツをより身近なものとしていくことも重要であろう。また、単に一過性のイベントとすることなく、障害者のスポーツ参加を身近なものとして広げていくことが求められる。障害の有無関係なく、インクルーシブな社会の中で、する、みる、ささえる、の観点から、障害者のスポーツ参加を広げていかなければならない。

今後も事例研究を重ねつつ、障害者のスポーツ参加のあり方やその理解を広げていく機会を検討していきたい。

謝辞

本研究に取り組むにあたり、ご協力頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

文献

- 前川利枝、大石ふみ子、櫻井しのぶ(2006):看護学生の初めての臨地実習に対する思い:フォーカスグループインタビューによる分析、三重看護学誌 8、131-136
- 松本耕二、田引俊和(2009):障がい者スポーツをささえるボランティアからみた知的障がい者のイメージと日常生活における意識・態度、山口県立大学学術情報 2、27-38
- 小浦誠吾、古川千栄子、山岸主門、野村二郎(2002):老人福祉施設において園芸療法を用いたボランティア活動に参加した大学生の意識調査、人間・植物関係学会誌 2 (1)、29-33
- 内藤正和(2007):大学生におけるスポーツ・ボランティア活動へのニーズに関する研究、愛和学院大学心身科学部紀要 3、21-29
- 大山祐太、増田貴人、安藤房治(2012):知的障害者のスポーツ活動における大学生ボランティアの継続参加プロセス-スペシャルオリンピックス日本・青森の事例から- 障害者スポーツ科学10 (1)、35-44
- 桜井政成(2002):複数動機アプローチによるボランティア参加動機構造の分析-京都市域のボランティアを対象とした調査より-、ノンプロフィット・レビュー 2 (2)、111-122
- 谷田勇人(2001):福祉ボランティア活動をする大学生の動機の分析、社会福祉学41(2)、83-94

Understanding of Participation in Sports of People with Disabilities : Through Interview to Students who Volunteered for Disabilities Sports Competition

Naoya KONDO*

Abstract : This study purpose was to clarify the change of consciousness from interview to students who participated in volunteer activities for disabilities sports competition.

Many were volunteers to participate by being invited by friends. Before the volunteer participation, they had never seen disabilities sports, so some people who did not have an image, and some people thought that they had awkwardness. On the other hand, they felt the charm of sports by actually having opportunities to involve with disabilities sports. It was suggested that experience related to disabilities sports in the vicinity was effective for promoting understanding of sports participation of persons with disabilities.

Key Words : sports for people with disabilities, volunteer

* Department of Social Work Practice, Social Welfare Course